

CFF ジャパン 海外の子ども支援にあたっての協働指針

CFF ジャパンは、その事業の柱の1つとして、世界の厳しい立場に置かれた子どもを支援しています。これまでの取り組みの経験も踏まえて考えると、対象となる子どもたちが愛情を受けながらケアされ、未来を担う人材に育つためには、①現地の事業運営主体（カウンターパート）が子どもの養育・支援について自らビジョンを描き、それに向けて責任を持って事業を遂行し、子どもを育てていくこと、②カウンターパートとCFF ジャパンとで理念を共有できること、が重要と考えます。

そうした理想の実現に向けて、以下の方針を基に支援に取り組みます。

【A】協働指針

- 1、厳しい立場に置かれた子どもの最善の利益を第一に考えます。
- 2、現地のカウンターパートの主体性を尊重し、ともに「自立」を目指します。

【B】行動原則

子どもへの人権侵害は見ごしません。 子どもが育つ現地の環境を壊しません。	⇒	子どもの最善の利益を第一に、人権擁護を最優先に考えます。現地で日本の青年がボランティア活動を行う場合も、子どもにとっての環境との両立には十分に配慮します。
原則として、子どもへ直接支援の関係にはなりません。	⇒	現地のカウンターパートによる養育のやり方を尊重し、地域のかで子どもが育てられるようになることを目指します。
恒常的な資金援助は行いません。	⇒	子どもへの支援の質向上や支援拡大につながる都度の取り組みについて、または緊急の支援について、資金的支援を行います。
継続的な事業主体にはなりません。	⇒	現地に信頼できるカウンターパートがある（できる）ことを前提とし、理念を共有しつつ「ともに」取り組みます。